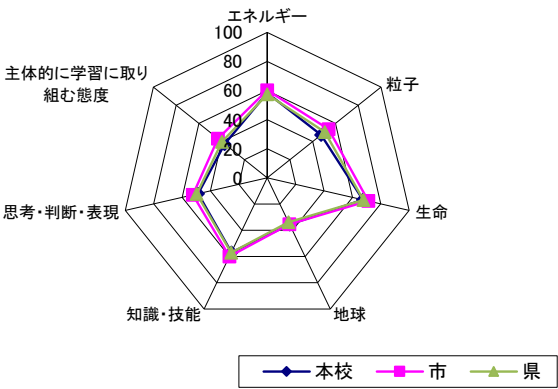


宇都宮市立陽南中学校 第2学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	エネルギー	58.4	60.3	57.4
	粒子	47.3	53.8	50.7
	生命	67.4	71.2	67.8
	地球	35.6	35.3	33.8
観点	知識・技能	56.8	59.9	57.0
	思考・判断・表現	48.7	52.4	49.7
	主体的に学習に取り組む態度	37.4	43.3	39.8



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
エネルギー	平均正答率は県をやや上回っている。 ○おもりがばねを引く力では10.5ポイントや弦をはじいたときの振れ幅を振幅ということについては6.9ポイント県とを大きく上回り、よくできている。 ●音を高くするための方法が県よりも3.7ポイント下回っている。	・グラフを用いて、おもりにはたらく重力とばねののびの関係を調べるなど、実験のデータ処理のしかたを丁寧に指導する。音や光の性質については、演習を多く取り入れるとともに、振り返りの実験などを行い、理解を深めさせる。
粒子	平均正答率は県を3.4ポイント下回っている。 ○水素自動車の水を排出する問題や水とエタノールの混合物の加熱の問題では県を上回っている。 ●金属と非金属の分類、二酸化炭素の発生、溶解度から結晶が出てくる理由を分析する問題では県を大きく下回っている。	・金属・非金属の意味や、気体の発生については、演習を繰り返し行い理解を深めさせる。溶解度の意味を理解し、計算問題を繰り返し解かせる。
生命	正答率は県とほぼ同じである。 ○植物の分類では県を8.1ポイント上回っている。他の植物や動物の分類でもよく理解できている。 ●軟体動物・無セキツイ動物の分類、ルーペの使い方では県平均を大きく下回っている。	・軟体動物や無セキツイ動物の分類は、それぞれの特徴を挙げた後、系統立てることで、分類の手法をつかませる。ルーペの使い方は繰り返し観察を行い、理解を深めさせる。
地球	平均正答率は県より1.8ポイント高い。 ○地震のP波・S波についての問題で8.1ポイント、双眼実体顕微鏡の使い方では3.5ポイントなどほとんどの問題で県を上回っている。 ●地層が堆積した当時の河口からの距離の変化の問題のみ県を下回った。	・今後も堆積するようすの理解を深めるために、演習を多く取り入れていく。